

なぜ洞爺湖には水がたまっているのか？

洞爺湖有珠山ジオパークでは、「大地の成立ちの物語」の面白さを地域づくりにつなげるため、様々な情報発信を行っています。

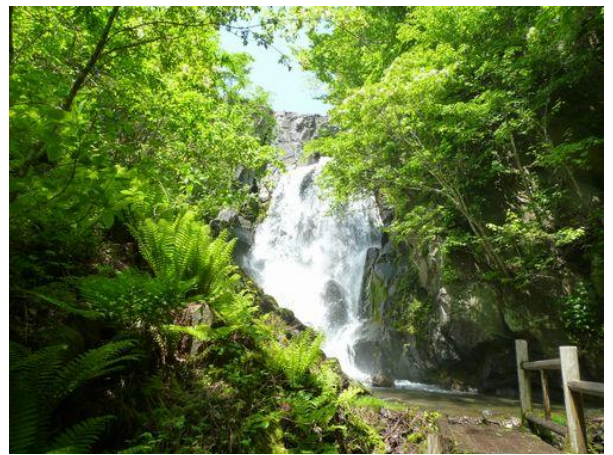
大地の成立ちを紐解く「地学」の醍醐味は、目の前の風景の仕組みや成立ちがどうなっているかを考えることにあります。今回は、「洞爺湖になぜ水がたまっているのか？」について考えてみましょう！

① 洞爺湖は流れる水のターミナル



大昔にとっても大きな噴火が起こったため、洞爺湖周辺は、周辺と比べて低い場所にあります。そのため、周辺の大地に降った雨や雪は、洞爺湖に集まっていきます。洞爺湖は水のターミナルなのです。

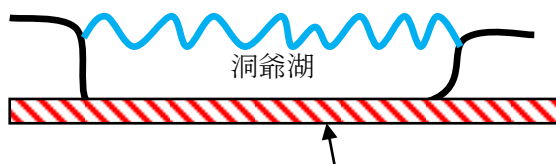
② 洞爺湖は節水上手



洞爺湖に集まった水は、壮瞥町にある壮瞥滝から出て壮瞥川になり、やがて長流川（おさるがわ）に合流して、噴火湾へと注ぎます。壮瞥滝は洞爺湖唯一の、自然の水の出口です。

③ 洞爺湖の下にラップ？

(※これはイメージです。)



「水を通しにくい層」が水の浸透を防ぎます。

洞爺湖の下には、水を通しにくい地層があると考えられます。これが、レンズで温めるときに使うラップのような役割を果たし、洞爺湖の水が地面にしみこみにくいのです。

④ 一緒に考えてみませんか？



今回は洞爺湖になぜ水が貯まっているかを他の火山の事例をもとに考えてみましたが、洞爺湖有珠山ジオパークの大地にまだまだ分からないことがあります。ぜひ、その謎を一緒に考えてみませんか？

洞爺湖有珠山ジオパークは、北海道伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町の4つの市町での取り組みです。様々な活動を通して、この地域の大地の魅力をお伝えしています。